

ケーススタディ & 発表で
生徒自身が学ぶ「情報モラル」
授業実践報告

神奈川県立座間総合高校
教諭 井川亜美

自己紹介

- 井川亜美
- 生まれも育ちも神奈川県川崎市
- 着任3年目

ここ出身です



設置科目

1年次

社会と情報

2年次

情報デザイン・データベース
ネットワークシステム（共修）

3年次

情報の科学・アルゴリズムとプログラム
ネットワークシステム（共修）

社会と情報

- 1年次 必履修
- 1クラス30人
- 生徒像
 - クラス全体が落ち着いて授業を聞ける
 - 意欲の低い生徒ももちろんいる
 - 基本的な能力（読解・考察・表現...）が低い
 - 外国につながりのある生徒も多い

本校で求められていること

- 情報リテラシー
- 情報モラル

年間指導計画

4月	パスワード・タイピング
5月	文書作成(Word)
6月	体育祭のチラシをつくる (Word・情報デザイン) ・著作権
7月	テスト返却等
8月	自己紹介をする (PowerPoint)
9月	情報モラルを調べて発表する (PowerPoint)
10月	
11月	ハードウェア・ネットワークについて
12月	テスト返却等
1月	グラフの特性 (Excel)
2月	アナログとデジタル・2進数 etc
3月	テスト返却等

まとめ

- 「情報モラル」を生徒が主体的に調べ、まとめ、発表するケーススタディ型の授業実践を行った。
- 「情報社会に参画する態度」が身についた。
- 「情報活用の実践力」が身についた。

単元全体の流れ

1

- 導入、事例の調査

2

- グループで事例共有

3・4

- 事例について考察、スライド作成

5・6

- 発表

7

- 振り返り

1時間目

- 「情報モラル」とは何か？
を教科書等を使いながら説明
- 「当事者の情報モラルが低かったがために起きてしまった事件」をインターネットを使って集める

Who (誰が)	When (いつ)	Where (どこで)
What (何をしたのか)	Why (なぜしたのか)	How (どうなったのか)

2時間目

- グループ作成（3～4人）
- 個人で調べた事例を共有・分類する（KJ法）
- 発表する事例を1つに絞る

3・4 時間目

- 発表する事例について、次の事を考える
 - 事件が起きた原因
 - 解決方法
 - 事件を未然に防ぐ方法
- パワーポイントにまとめる
 - テンプレート作戦を使用した
 - メリット
 - 作成時間の短縮
 - 不慣れな生徒でも割と何とかなる
 - 発表時間がこちらで制御できる
 - デメリット
 - 一人しか作業できない

タイトル

○年○組○班

メンバー:○○○○、○○○○、○○○○

事件の概要

- Step1,Step5で調べた内容を書く
- 基本的には報道されている事実が書かれるはず
- 追加で調べるのも良い(複数メディアで報道されているはず)
- 5W1Hがはっきり分かるように書くこと!

事件が起きた原因

- Step6でまとめた内容を書きましょう
- 原因が記事に載っていない場合は想像して書く
- 5W1Hはとてども大事
 - Who(誰か)は特に重要。
色々なWhoを考えよう。
(例:加害者・被害者・それぞれの周囲の人・サービス提供者...etc...)

トランプノーツ

事件を解決する方法

- Step6でまとめた内容を書きましょう
- 「事件が起きてしまった!→解決する方法」であることに注意
- グループで話し合って考えよう
- 5W1Hはとてども大事
 - 様々なWhoからの切り口があるといい

事件を未然に防ぐ方法

- Step6でまとめた内容を書きましょう
- 「事件が起こらないように防ぐにはどうすればいいか」に注意
- グループで話し合って考えよう
- 5W1Hはとてども大事
 - 様々なWhoからの切り口があるといい

まとめ

- スライド2~5の内容で重要な部分をつまみつつまとめる
- メンバーの感想を書いてもいいけど1行程度で
- 「ご清聴ありがとうございました」スライドは不要

全体的な注意

- 画像を使ってもいい
- スライドの枚数は増やさない
- タイトル・スライドタイトルは自由に変更してください
- 発表時間は5分

5・6時間目

- 「発表の心得」の伝授
- 発表中はメモを取らせる
 - 内容についての評価 (A・B・C)
 - 心得が守れていたか (A・B・C)
 - 内容のメモ・学んだこと

7時間目

- 振り返り
 - この授業をする前から知っていたこと
 - この授業を通して学んだこと
 - これから知りたいと思ったこと
 - サイバー犯罪について、自分を守るためには？
 - インターネットで、相手を傷つけないためには？

よかった点

- 自分たちで調べると、新鮮さが大きい
 - 「えーこんな事件あるの」
- 最後まで主体的にやり通すことができた
 - 生徒が選んだ事例の一例
 - なりすまし事件
 - ネットゲームアカウント詐取
 - 広島LINE殺人事件
 - ベネッセ個人情報流出事件
 - 著作権系
 - 京都大学Yahoo知恵袋事件
 - ベッキーとゲスの極みの人の事件（？）

よくなかった点

- そもそもこの単元に時間かけすぎでは説
- 事例についての考察が甘かった
- 発表の評価を対象者に還元する仕組みを作りそびれた

今後について

- 生徒はグループワーク慣れはしているが、他人を評価することに慣れていないので、継続して指導したい
- 「よかったです」はよくないです
を合言葉にした時間ごとの振り返り指導
- 日本語に不慣れな生徒でもできる授業デザイン

参考資料

- 後藤芳文,伊藤史織,登本洋子.学びの技 14歳からの探究・論文・プレゼンテーション,玉川大学出版部
- シンキングツール®～考えることを教えたい.
ks-lab.net/haruo/thinking_tool/ .(参照2016/8/1)
- 伝わるデザイン | 研究発表のユニバーサルデザイン.
tsutawarudesign.web.fc2.com .(参照2016/8/1)